

～絵本作家はりたつおさんが見た龍ヶ崎～

市民が選ぶ龍ヶ崎の魅力を

人気アニメとのコラボで描く

オイラたちにも、やさしい龍ヶ崎



妖怪人間ベム × 茨城県 龍ヶ崎市

「龍ヶ崎って
なにもないよ」
本当になにもないの
でしょうか？

「龍ヶ崎ってなにもないよ」そんな
声を聞くことがよくありませんか？
龍ヶ崎って本当になにもないので
しょうか。

市では、龍ヶ崎の魅力を市民の人
に改めて感じてもらうたり、知って
もらい、まちへの愛着を醸成する取
り組みを進めています。

約4000人を対象に実施してい
るまちづくり市民アンケートでは、
毎回「龍ヶ崎で一番好きな場所を教
えてください」という質問を設定し
ています。

今回、市民の皆さんの回答で上位
にくる「自慢できるスポット」を中
心に本市の良さを改めて感じてもら
おうと5つのスポットとプロローグ
1編の6点のイラストを制作。

絵本作家はりたつおさんにより描
かれた、『妖怪人間ベム』と『昆虫
物語みなしごハッチ』の50周年記念
企画でコラボした当市イメージアッ
プスターが完成し、3月6日（金）
から市内やJR常磐線沿線の駅に順
次登場します。

オイラたちにも、やさしい 龍ヶ崎

ストーリー仕立てのポスターのメインコピーは「オイラたちにも、やさしい龍ヶ崎」。

アニメの中では、人間に裏切られ続けるベムたち。それでも、はやく人間になりたい」と願っています。

このストーリーでは、そんなベムたちが「人間は願いを叶えるためにいろいろな場所に旅をするんだよ」と虫たちからアドバイスをもらい、各地をハッチと旅します。ある日、彼らは一年中ワクワクできる街があると聞きつけます。

期待と不安に胸膨らませ、訪れたのは龍ヶ崎市。そこでいきいきと暮らしている人々の、自慢できるふるさとを自身の目で見て、人と触れ合い、ベムたちは龍ヶ崎の良さを実感していきます。



絵本作家が描く龍ヶ崎 「子どもたちに 楽しんでもらえる絵を」

今回のイラストのテーマは「市民に愛される人気スポット」。まちづくり市民アンケートをもとに、市内5カ所を選出しました。作画・ストーリーはDenesse「しまじろう」をはじめとするキャラクター絵本などの作品を手掛けている絵本作家・はりたつおさんが担当し、鮮やかな色彩と心温まるストーリーで龍ヶ崎市の魅力を生き生きと表現しています。

龍ヶ崎市の大きな魅力は「人の温かさ・やさしさ」と話すはりさん。20代の頃、佐貫駅そばのホテルに宿泊しながら、近隣施設のデザイナーとして働いた経験があり、今回当市からの依頼を受けた際に「ものすごく縁を感じた」そう。

当時、感じた地元の人たちの心の温かさ・やさしさは、今でも心に残っており、「故郷ではないけど、思い出深いところ」だそう。そして、まちの印象は「空がとてと広くて、木々が太くて魅力的なものも大きな特長ですね」とも。

はりさんが感じている龍ヶ崎市の魅力は、作品のたつこのフィールドの空やたつのこやま（龍ヶ岡公園）の木々、そこで遊ぶ子どもたちの姿として表現されています。

5つの人気スポット（風物）は、たつのこやま、たつのこフィールド、牛久沼、撞舞、般若院のシダレザクラ。

作画に当たって、はりさんは「子育て支援に力を入れる龍ヶ崎市では、子どもが主役。子どもた

ちに楽しんでもらえるような絵作りを心掛けた」とのことです。

アニメキャラクターで表現する 「地域で子どもの成長を 見守るまち」

有名絵本作家の起用とともに、幅広い世代から愛されているアニメキャラクターとコラボレーション。イラストでは、『妖怪人間ベム』と『昆虫物語みなしごハッチ』に登場するキャラクターたちが、龍ヶ崎をお散歩していきます。

ベムたちが、ハッチと一緒に龍ヶ崎を巡ることで、はりさんが語ったような人のやさしさに触れ、改めて、人間になることへの想いを強めていくストーリーです。

魅力的な風景はもちろんのこと、イラストの中で印象的なのが、ベムを見守るように少し離れた所に描かれているベムとベラ。

これは「大人が一步引いて子どもの成長を見守れるまち」つまり、「地域が子どもたちを育てて

いる、まちに子育てを任せられる安心感」を表現したかったからだろう。

実は、「子育て環境日本一」を目指す龍ヶ崎市が平成28年に宣言した「子育て応援都市宣言」にも、同じようなフレーズが。まちの宝である子どもたちを、地域全体で育てていく…そんな想いも込められたイラストです。

隠れている？ まいりゅうを見付けよう！

このイラスト全作品に実はこっそり登場しているのが、龍ヶ崎の子どもたちに人気の当市のマスコットキャラクター「まいりゅう」。龍ヶ崎を散歩しているベロやハッチたちを見守ります。

はりさんいわく、「ポスターを見かけたら、子どもたちがここにまいりゅういるよ！って遊べるような要素も入れてみました」。遊び心がたっぷり盛り込まれたイラストにいる「まいりゅう」を探すのも、このポスターの楽しみ方のひとつになるはず。



はりたつお
版画家・絵本作家
イラストレーター

1974年鳥取県生まれ。現在までにキャラクター絵本の作画を多数手掛けている。版画作品は、子どもの笑顔と音楽をテーマに制作。特に風景画に定評があり、独特のタッチと色彩に溢れた作品を発表し「風景画の詩人」として評されている。



全6作品を龍ヶ崎市駅でパネル展示！

今回制作したイラストを、龍ヶ崎市駅東口を中心にパネル展示します。全6作品のうち、今号の表紙にもなり、多くの方に人気の「たつのこやま」を描いた作品は、東口階段下に5.2m×2.4mの圧巻のサイズで展示します。その他の作品はポスターで展示しますので、ぜひご覧ください。

■期間 3月14日(土)～31日(火) ■場所 東口階段・エスカレーター壁面など

オイラたちにも、やさしい龍ヶ崎

「龍ヶ崎を子育て環境日本一」応援プロジェクト
たつのこアクション

検索 龍ヶ崎市

JR常磐線沿線の駅に イメージアップポスターが登場

今回制作したポスター6点を、千葉県内を中心としたJR常磐線沿線の駅に掲出し、当市への近さをお知らせするとともに、気軽に遊びに来てもらえるようイメージアップキャンペーンを行います。

- 期間 3月6日(金)～23日(月)
※駅により期間が異なります
- 場所 取手駅・我孫子駅
柏駅・新松戸駅・北千住駅



着色し、切り抜いた薄葉紙を貼り合わせていく。今回のようなイラストだと数えきれないほどの枚数になるそうで、気の遠くなるような作業です。

※包装紙などに使われる半透明の薄く漉いた紙

手作業の部分は大変な手間ですが「素材感を大切にするために」敢えて全てをデジタルにはしていないとのこと。実際に作業現場を見ると、このアナログの部分が、見る人に素朴な印象や安らぎを与えてくれるのだと感じます。

都心に近いのに、どこかホッとする田舎的要素を持つ龍ヶ崎とも、似通っている手法との印象を受けました。

はりさんが制作する作品で用いられるのは、切り絵の手法。着色した薄葉紙※を切り抜いてパーツを作り、それらを貼り合わせて作画しています。展覧会用の作品制作では、切り抜いた薄葉紙を台紙の上のりで貼る作業を繰り返すそう。ただ、今回のような印刷物（ポスターなど）になる絵では、修正があることも多くあるため、切り抜いた薄葉紙を一枚一枚スキャナーでデータ化し、それをパソコン上で貼り合わせ、作品を完成させていくそうです。

素朴さと華やかさ、心安らぐ切り絵の世界



【般若院のシダレザクラ】

例年3月末には開花する般若院のシダレザクラ。全6作品の中の1枚、龍ヶ崎の春の風物詩をどのような思いで、はりさんが描いたのか伺ってみました。

「桜が立派で、みんなが知っている桜でしょうから、写真にならないように意識して描いています。木って上に枝を広げていくし、空に向かって伸びていく姿を表現するため、枝を支える支柱が空に向かって突き抜けていくような

イメージで描きました。空の広がりも感じてもらえるのかなと思います。また、支柱を描いたことで、コマ割り漫画のようにも見えますので、構図として面白いものになりました」

お気に入りの「龍ヶ崎の風景」写真投稿募集中！

龍ヶ崎市 PR サイト「たつのごアクション」では、皆さんがオススメする「龍ヶ崎のお気に入りスポット」情報の投稿を募集中！ 今回のテーマは「お気に入りの龍ヶ崎の風景」です。



投稿いただいた方の中から抽選で3人に「まいりゅうハンドタオル」をプレゼント！ QRコードからぜひご投稿ください！皆さんの投稿をお待ちしています。

抽選で
3人に当たる！

